

第5回 日本ベンチャー大賞

経済産業大臣賞

(ベンチャー企業・大企業等連携賞)

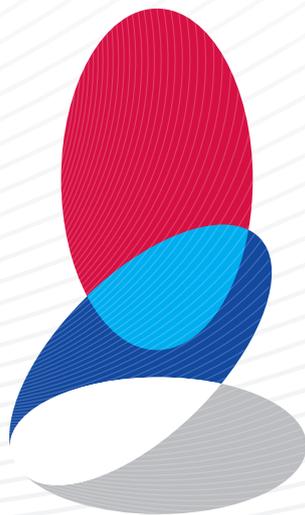


ラクスル 株式会社



 ヤマトホールディングス

ヤマトホールディングス株式会社



5th.
**NIPPON
VENTURE
AWARD**

経済産業大臣賞

ベンチャー企業・大企業等連携賞

仕組みを変えれば、
世界はもっと良くなる



ラクスル 株式会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎二丁目24番9号 アイケイビル1F
https://corp.raksul.com/

事業のビジョン

「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」をビジョンに、デジタル化が進んでいない伝統的な産業に、インターネットを持ち込み、産業構造を変え、より良い世界を実現することを目指しています。
大企業中心に垂直統合で成立していた産業構造(製販一体型)を、プラットフォーム中心の水平分業された産業構造(製販分離型)にアップデートすることにより、多重下請けでピラミッド型の20世紀型の産業構造を変革する事業を行っています。

事業の概要

2013年にリリースした、印刷のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」は、登録ユーザー数が70万人を突破し、提携印刷会社数も着実に増加しています。「印刷」領域に続き、2015年3月より「広告」領域にも事業を展開し、ポスティング、新聞折込、交通広告など、インターネット広告以外のオフライン広告市場の変革にも取り組んでいます。
また、2015年にリリースした物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」は、軽貨物事業からスタートし、現在は一般貨物事業向けにサービスを拡大しています。2019年2月から開始した『ハコベルコネク』は、物流大手企業で既に導入が進んでおり、利用企業と共にサービス改善を行いつつ、物流業界全体の効率化をリードしています。

起業に至る経緯・動機

代表取締役社長の松本は、2008年に外資系コンサルティング会社に新卒入社しました。当時はリーマンショックの真っただ中。コンサルタントとして企業にコスト削減提案を行う中で、「印刷コスト」が多くの企業コストを圧迫している点に着目しました。
印刷業界市場は、その約半分を大手2社が占め残りを約3万社で奪い合っています。また多重下請けの「ピラミッド型」構造になっているため、業務の非効率さに加えて、多額の間接マージンが発生していました。
その業界構造により、中小印刷会社は「本来受け取れるはずの報酬より低い額で仕事を請けている」という課題があり、印刷発注側も「印刷価格が高い/価格の根拠が不透明」という課題が発生していました。
上記の業界構造変革を目的とし、2009年9月にラクスル株式会社を設立し、2013年3月に印刷のシェアリングプラットフォーム『ラクスル』をリリースしました。次いで2015年12月には物流のシェアリングプラットフォーム『ハコベル』をリリースしました。



PROFILE
代表取締役社長CEO
松本 恭攝
Yasukane Matsumoto

2008年慶應義塾大学商学部卒業。
A.T.カーニー株式会社を経て2009年9月にラクスル株式会社を設立し代表取締役社長CEOに就任。



印刷・広告のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」



物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」

オープンイノベーションで
物流業界の課題を解決



ヤマトホールディングス

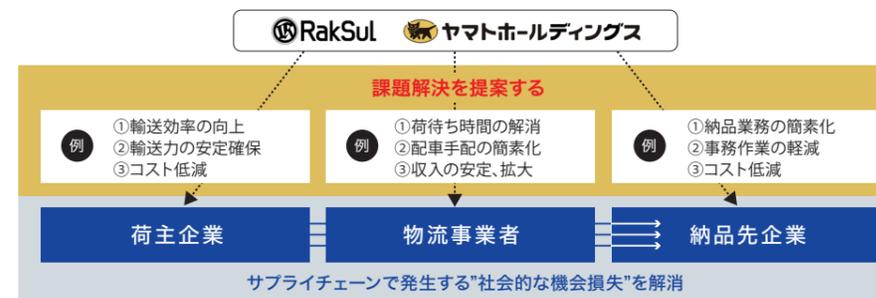
ヤマトホールディングス株式会社

〒104-8125 東京都中央区銀座2丁目16番10号
http://www.yamato-hd.co.jp/

事業連携の概要

ヤマトホールディングスは、様々な業界の企業間物流において付加価値の高いソリューション提供を目指し「バリュー・ネットワーキング」構想を推進しています。また、2017年4月にデジタルイノベーション推進室を設置するなど、デジタルテクノロジーの活用を本格化させるとともに、自社の経営資源のみならず、積極的にオープンイノベーションを通じた外部企業との連携を推進しています。
テクノロジーを活用して業界課題を解決してきたノウハウを持つラクスルと、物流事業者として様々な業界に顧客企業をもつヤマトHDは資本提携を行いました。荷主・納品先企業と物流事業者の双方が抱える課題を同時に解決できるオープン型の物流プラットフォーム「ハコベルコネク」の開発にあたり、物流業界の現状を広くオープンにして共有し、その開発に貢献できたと考えています。

様々な業界の企業間物流に対して テクノロジーを活用した“オープン型の物流プラットフォーム”の構築へ



荷主・納品先、物流企業が抱える“ムリ・ムラ・ムダ”に対する解決策の提案や、企業間で異なる商習慣から生じる、相対で変わる“複雑な関係をシンプル”にする。

事業連携に至る経緯

ヤマトグループは、スタートアップの皆様との連携については、常に長期的視点で考え、当社による何らかの価値提供を通じて共に成長することを目的としています。
日本の物流業界においては、荷主・納品先企業と物流事業者間における、出荷や納品時の煩雑作業や待機時間の発生、ドライバーや車両不足等により、社会的な機会損失が恒常的に発生しています。その一方で、デジタルテクノロジーの飛躍的な進歩に伴い、従来のサプライチェーンを抜本的に変革できる可能性が急速に高まりつつあります。ラクスルとヤマトHDのお互いの強みを活かし、様々な業界の企業間物流の構造変革の実現を目指すことで合意し、資本提携に至りました。
弊社の基本的なスタンスは、ギブギブギブ&テイク。この姿勢でこれからも積極的にスタートアップの皆様とのオープンイノベーションに取り組んでまいります。



PROFILE
代表取締役社長
長尾 裕
Yutaka Nagao

1988年、高崎経済大学経済学部卒業後、ヤマト運輸株式会社に入社。同社常務執行役員、同社代表取締役社長を経て、2019年当社代表取締役社長に就任。現在に至る。